

北区・大宮学区 近隣住民、学生が運動開始



「大宮ほっとかへんで運動」の進め方を協議する住民たち
(京都市北区・西賀茂会館)

東日本大震災を契機に京都市北区大宮学区の住民が、一人暮らしの高齢者や障害者を見守る「ほっとかへんで運動」に乗り出した。家族や学生が「近隣支援者」として話し相手や緊急時の救援を担う。地域の絆を深め、災害に強いまちづくりを目指す。

災害時、速やかに救助

運動は、大宮社会福祉協議会などが主導し、佛大が協力する形で進めている。見守る対象は一人暮らしの高齢者、高齢者夫婦、身体障害者ら約100人の参加を目指す。両者をあらかじめ組み

合わせて台帳に登録。日ごろから会話するようにし、地震や水害などの災害時、急病時に速やかに手助けできるようにする。高齢者には「安心カード」を配り、住所、名前、かかりつけの医院、必要な医薬品、支援者の情報などを記入しておく。

10月から下宿学生の世帯を除く約5100世帯にチラシを配り、見守り対象者の登録に動きだしている。作った台帳の原本は社協が厳重管理し、各町内会ごとの台帳は会長が保管する。

同社協の西田輝雄会長(76)は「核家族化、高齢化が進み、隣近所に親しい人がなくなりつつある。運動を通じて活発な近所付き合いを取り戻したい」と話している。

(生田和史)

京都市南区役所は、来年から区内の介護サービス事業所に設ける「認知症の相談窓口」の愛称を「みなサボ」とし、シンボルマークを東寺の五重塔を模した絵柄に決めた。いずれも、西京区のグラフィックデザイナー・居関

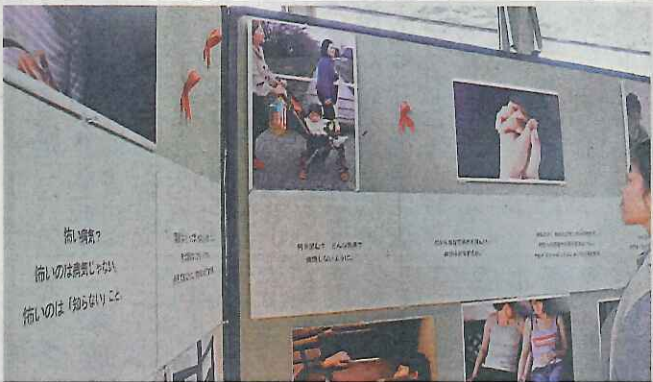


居関さんが考えた南区の「認知症の相談窓口」のシンボルマーク

手仕事に親しむとともに東日本大震災の被災地支援になればと、京都市下京区のジーンズショップ「京都デニム」が5日、チャリティーで販売するデニム人形を製作する授業を

下京のショップと学生販売収益で東北

同区の通信制高校サポーター校「KTC中央高等学院京都キャンパス」で行った。京都デニムはジーンズ



エイズ無知の怖

パネル写真で啓蒙

エイズ予防を啓蒙するパネル写真展が、京都市南区の南青少年活

光と影の世界 写し取る

下京 モノクロ作品並ぶ



京都市下京区の女性が、日常風景をモノクロフィルムで撮った初の個展を同区仏光寺通烏丸東入ル1筋目上ルのギャラリー「繭」で開いている。光と影が織りなすひとときの景色を切り取り、見る人